

新

令和元年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより

英! 3冊のマンガを
17, 20 入荷しました!

モリモリ書店

第8話 R15.13(月)
「見えるものと、見えにくいものと。」

★今回、紹介する本は、『小児科の先生が車椅子だったら 一私とあなたの「障害」のはなし(ちいさい・おおきい・よわい・つよい)』(著/熊谷晋一郎、出版/ジャパン・マシニスト社)です。

赤ちゃんの頃に、脳性麻痺を患って以降、車椅子で生活する熊谷さんは、現在、東京で小児科の医師をやりながら、さまざまな研究をしています。

この本は、熊谷さんが小学生に対して行った講演の様子を軸に、障害について教えてくれます。

「僕の体を見て、ふつうじゃないと思うところに付箋を貼ってごらん」という問いかけから始まる講演がとても魅力的です。「ふつう」とは何か。「ふつう」を求めていくことが正しいのか。今まで自分がもっていた価値観が揺さぶられていくのを感じながら、熊谷さんの一言一言をかみしめてほしい1冊です。短い本ですが、とても深い。



小児科の先生が
車椅子だったら

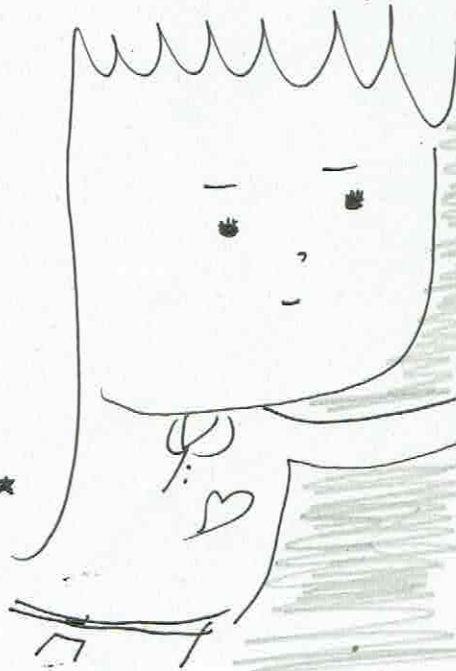
—私とあなたの「障害」のはなし—

著者 熊谷晋一郎

私の体、
ふつうでない
ところはどこ?
付箋に書いて
貼ってください。

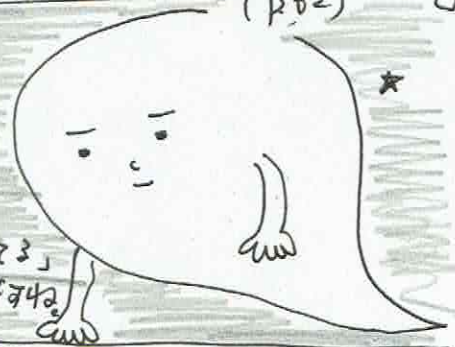
123
「私」が「あなた」の「障害」が、と、7もすてきな人です。

「ちいさい」「よわい」は、
単純なわるいこと
じゃないんだ。★



人は、そんなに、変わらない。(p62)

↑
これは「ネガティブな意味」
じゃないですよ。自分の失敗
や困り感が、全て、自分の
ダメな子足、で思わされると
つらいよね、って言うです。「困、てよ」
ときには、「困、てよよ」、って言うた、てすね。



「おわりから見えにくい障害
は、自分からも見えにくい。」
(p43)